

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100235		
法人名	社会福祉法人すずらん会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑		
所在地	和歌山市屋形町1丁目39番地の2		
自己評価作成日	平成24年10月4日	評価結果市町村受理日	平成24年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では利用者様の人格を尊重し常に利用者の立場に立ち、その人がその人らしく生活できるよう支援しています。毎週、書道・絵画・音楽クラブを行っています。また、謡いやコーラス・絵手紙・手芸教室等、地域のボランティアの講師の方が来てくれています。行事やイベントでは家族や地域の方にも参加を呼びかけて交流を持てるよう取り組んでいます。利用者の健康管理においては、協力病院と密に連絡を取り、定期診察や、急変時の時間外での診察も受けられるように連携を取っています。いつでも相談できる体制作りに努め、健康・安全に生活できるように取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokouhyou.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3090100235&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成24年10月29日		

市の中心部に位置する7階建ての地域密着型複合施設の3階のホームで、関連法人の協力医療機関との連携が密にとられている。「みんなのお家」をホームの理念に掲げ、この理念の下に入居者はじめ家族や関係者など、多くの人を巻き込んで入居者の地域での暮らしを支えるケアに取り組んでいる。認知症介護の経験を活かして地域住民からの認知症の相談に応じ、本の貸し出しも行う等、認知症になっても住みなれた地域で周りの人たちに支えられその人らしく暮らせることを支援する拠点として取り組んでいる。

ています。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホームの理念として、「皆と一緒に暮らす『ここはみんなのお家』」をかかげ、管理者と職員一同で理念を共有し、日々の支援に努めている。	書の得意な入居者が書いた筆書きの理念を共用スペースに掲げ、皆で共有して入居者の暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道路に面した掲示板を、毎月季節に合わせて利用者と共に作成掲示しており、地域の方にも見てもらっている。行事にも参加してもらっている。近所への散歩や買い物にも出かけて、挨拶を交わしている。	近隣の人とは日常的に挨拶や会話を交わす関係ができています。法人施設で催す行事やイベントには地域の人も参加している。掲示板に張り出した入居者の作品は市の文化祭に出展を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出の機会を増やし、コミュニケーションを取れるようにしている。また、地域の高齢者の相談業務を行ったり、行事を共に楽しんでいる。 認知症の書籍等を自由に貸し出しできる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、法人内の3事業所合同で行っている。外部の方や、家族代表者等の意見を聞き、サービスの向上に取り組んでいる。	会議では事業所からの報告だけに留まらず参加者から出された質問・意見・要望について話し合い、双方向の会議となるように配慮している。入居者も出席し自分の意見を出せる場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所が近いので、直接出向き、市役所各担当者、高齢福祉課、介護保険課等に相談・指導を受けている。	市役所に入居者と一緒に出かけることもあり、窓口の担当者に挨拶したり市の職員から声を掛けられるなどの馴染みの関係の中で協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 身体拘束についての苑内研修を行い、理解を深めている。職員全員で、身体拘束を行わない介護の実践に取り組んでいる。	法人内での研修は月に2回実施されており、拘束についてのマニュアルも作成されている。目に見える拘束だけでなく言葉による拘束も行うことがないよう気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を行っている。 職員全体で各利用者様の状態について共有し、ケアの方法について話し合い検討し、個々に対応したケアを実践している。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所 わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やケアマネージャーは外部研修等で学び、必要に応じて活用できるように努めている。 職員も研修会で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は書類を見ながら説明を行っている。わからないことがあれば説明を行い、理解・納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誰でもいつでも意見を提案できるように、意見箱を設置している。意見・提案があればすぐに会議を開催し検討・対応するようにしている。 家族へのアンケートも行っている。	行事の時や家族の来訪時に直接意見・要望を聞けるよう対応しており、家族アンケートも実施している。サービス内容への要望を受けた時は迅速に対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、週1回のフロア会議等で職員からの意見や要望を聞く機会を設けている。それを、管理者参加の週1回のケアマネ会議で反映させている。 職員へのアンケートも行っている。	会議等の場以外でも、提案や意見・要望等について職員間で日常的によく話し合われており、可能な限り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアマネ会議にて職員の勤務状況について報告を行っている。 職員に業務改善のアンケートを行い、より良い環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修は毎月テーマを決め行っている。 外部研修も職員に通達し希望する職員が参加できるようにしている。 業務の中で一人ひとりのスキルチェックや指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や、入所待機者の担当ケアマネ等と交流を持ち、他事業所の環境やサービス、問題解決等、情報交換を行いながら、サービスの質の向上に努めている。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所 わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では、出来る限り本人様の希望や、不安を聞き、どのような支援が必要か話し合っている。本人の望む暮らしの実現に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や、電話等の相談により、家族様の希望や不安を聞き、適切なサービスを家族と共に選択している。家族様にも安心してもらえる関係作りに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様がその時に必要としている支援を考え、当施設のサービスに限らず、他事業所のサービスやインフォーマルサービスの活用も含めた支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全体で、一人ひとりに適したケアを行ない、それぞれの趣味や特技を生活の中で活かせるように支援している。寄り添い、共に過ごすことで、みんなで一緒に暮らすという理念の実現に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や、外出等は家族様にもお願いしながら共に支援していけるように取り組んでいる。行事にも参加してもらっている。生活暦を教えて頂いたり、日常の変化等、何でも互いに相談・できるよう連絡を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方にも気軽に面会に来て頂けるように努めている。 家族様の協力のもと自宅への外泊や、お墓参りや美容室等にも出かけている。	入居者の長年培った趣味や習慣などを継続するために茶会を催している。また、使い慣れた化粧品を馴染みの店に買いに行くなど本人がこれまで大切にしてきたことの継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のそれぞれの関係を考慮しながら、各個人やグループに応じた役割を持ってもらい、互いに支え合いながら生活できるように取り組んでいる。作品展等への展示物はみんなで協力して制作している。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所 わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族様からの相談を受け付けたり、本人様の様子伺いを行ったり、関係の継続を大切にしている。行事の案内やお便りを出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、個々の思いや意向の把握に努めている。家族様から趣味や生活暦等を教えていただいている。各職員にも気付きを大切にしよう心がけてもらっている。	日々のかかわりの中で何気なく発する言葉・態度で表現されることを見逃さず、その裏にある本当の思いや意向の把握にも努め、その気付を大切にケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入所前の担当ケアマネ等に生活歴やサービスの利用状況等聞き取るようにしている。入所時にも、それまで使用していた日用品や家具等、馴染みのものを持ち込んでもらうように依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェック、食事・水分摂取量、排泄パターン等の把握を行っている。個々に支援経過記録を記入し、心身の状態に合わせた生活を送れるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族や、医師・看護師・PT・管理栄養士・介護スタッフ等に意見を聞きながら、介護計画を作成している。各利用者様の担当職員で24時間シートを作成し、職員全体で共有している。	24時間シートから見える暮らしの現状と支援経過記録、業務日誌から分かる日常の変化を基に関係者の意見を取り入れ、入居者本人がより良く暮らすための介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個別で毎日、支援経過記録を記入している。行ったケアや本人の思い等、日々の状態や気付いたこと等記入し、職員で共有している。職員間で意見交換を行いながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況、その時々ニーズに応えられるように、協力病院との連携や、他フロアとの協働、その他サービスの活用についても検討し、対応できるように努めている。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所 わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや幼稚園から慰問に来てもらっている。地域の商店やスーパーへ買い物に出かけたり、公園へ散歩に出かけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を優先し、かかりつけ医の診断を受けられるように支援している。協力病院以外での医療病院でも連携を取り、相談・報告を取りながら、適切な医療を受けられるようにと支援している。	受診には家族が付き添うが都合の悪いときは職員が行う場合もある。それぞれの受診先の病院との連携や報告は看護師が行い、申し送りノートで情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調や異変時の報告・相談はいつでもできる体制になっている。受診の付き添い・服薬管理は看護師が行っている。申し送りノートで情報は共有できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはカンファレンスを行い、病院関係者との連携を密に取っている。入院時には情報提供書を作成して渡している。入院中も様子伺いに行き、連携を図れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、家族・医師・看護師等と話し合いを行い、出来る限り希望に添えるように取り組んでいる。看取りに関する指針に沿って、職員全体でケアしていけるように努めている。	看取りに関する指針を作成し、終末期には家族の宿泊などにも対応できるようにしている。事業所の方針は入所時に説明しており、本人・家族の要望があれば、できるだけ希望に添えるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や苑内研修にて、傷病の理解や急変時の対応について学んでいる。緊急時にはマニュアルに沿って対応するようにしている。柔軟な対応ができるように職員に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に施設全体で職員・利用者参加で避難訓練を行っている。火災や停電等に対応できるように訓練を行っている。避難経の確認や消火器の位置等、全職員が把握しているよう指導している。	避難訓練は年に2回実施している。職員は採用時に指導を行い、有事の対応の心構えもある。地域の協力体制も構築できている。	

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所 わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や経歴等を把握し、人格を尊重したケアに努めている。女性の入浴は必ず女性スタッフで行っている。排泄介助についても出来る限り同性介助で行うように努め、羞恥心に配慮している。	入居者のその人らしい尊厳ある姿を大切にしている。援助が必要なときも、まずは本人の気持を大切に、自己決定しやすい言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	クラブ活動への参加や、入浴等本人の希望に添えるように取り組んでいる。外出も本人の希望に添えるように努めている。本人の思いを尊重したケアの実践を目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や、日中活動等、本人の体調やペース、希望や気分に沿って行うようにしている。 時間に余裕を持ち、個別に対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に着る服選んだり、髪を整えたりしている。行事や外出時には、その人らしいおしゃれができるように支援している。散髪は月に一度、理容店の方が来てくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯と味噌汁はフロアで炊いている。副食は厨房で調理し、フロアで盛り付け・配膳を行っている。利用者の食べたい物を聞き、イベント食やおやつ作り、外食等を行っている。	時には皆でホットプレートを使った調理を行うこともある。料理が出来上がる過程で立ち昇る湯気や匂いを感じて、笑い声も聞かれる。	自分たちで行う取り組みをさらに延長し、食を通しての役割を持つことなど、意欲や自信を引出し、よりいっそう張り合いのある生活に繋がることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事・水分摂取量を記録し把握している。管理栄養士により、カロリー管理されている。個別に対応したメニューや形態を提供している。嗜好調査を行いながら、栄養バランスの良い食事を提供できるように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で行える方には声掛けを行い、歯磨き・うがいをしてもらっている。介助が必要な方には職員がケアを行なっている。 週に2回は歯科衛生士が口腔ケアに来てくれている。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所 わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、それぞれの排泄パターンの把握に努めている。その方に合ったトイレ誘導・声掛けを行っている。一人ひとりのサインを見逃さないように努めている。	自尊心に配慮し入居者の様子から敏感に察知しさりげなく声を掛け、身体機能に応じて手を差しのべたり、歩行介助をトイレ誘導をしている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツの使用も本人に合わせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を把握し、食事や水分の摂取量に気をつけている。便秘傾向で排便コントロールが必要な方には、医師・看護師に相談しながら適切に便薬等を使用している。運動やマッサージ等の支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的には週に2回の入浴を予定しているが、本人の体調や、希望・気分に合わせて実施している。失禁時等、その場の状況に合わせて柔軟に入浴できるように取り組んでいる。	入浴をいやがる入居者には無理強いすることなく本人の体調や気分に合わせてスタッフもタイミングに合わせて柔軟に対応して入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動を促し、夜間良眠できるように努めている。一人ひとりの生活リズムに合わせて、休息を取れるように配慮している。不穏な時には、寄り添い話を聞き、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理を行い、職員が服薬介助を行っている。一人ひとりの薬情をファイルしており、職員全体で把握・確認を行っている。症状の変化や、経過観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や職歴、趣味等の得意分野を発揮できるような役割を持ってもらったり、頼みごとをして、生き活きとした生活を送れるよう支援している。クラブ活動や散歩等、気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節を感じてもらえるように散歩やドライブに出かけている。それぞれの希望に沿って買い物等にも出かけられるように努めている。お墓参りや美容院等、家族様も外出に協力してくれている。	ドライブは特養と合同で週に一回行っている。周辺は官公庁・お城・繁華街が近く、散歩コースになっている。また協力病院が道を隔てたところにあり、リハビリや通院時に少し回り道をして季節の外気浴を楽しんでいる。	入居者のこれまでの生活の継続、入居者と職員両方の気分転換やストレスの発散、五感の刺激を得られる貴重なチャンスと捉えて、個別対応の外出の機会がより多くなることに期待したい。

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所 わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で所持しているのは少額だが、家族様協力により、事務所で預かり金を管理しており、買い物に行く際に持ち出して使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している方のいる。その他の方には、職員が電話をつなげて、本人が直接話しをできるように支援している。郵便についても本人の希望時に支援できるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は空調や明るさ等、不快にならないよう配慮を行っている。 花や手芸作品等を飾り、季節感を感じられるような空間づくりに取り組んでいる。	絨毯の和室スペースが食堂としても活用されるようになり、手すり付き階段が入居者の移動を助け、苑内の動きも増し、暖かく寛げる空間となった。また玄関前のロビーは掲示板に飾る入居者協働の作品作りの場となっている。	トイレや浴室スペースにおいても、入居者の目線に立ち、暖かい雰囲気の中でプライバシーが確保され、より気持ち良く使える工夫が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビング・サロン等、思い思いに過ごしてもらえるようにしている。 気の合った利用者同士で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力してもらい、馴染みの家具や生活用品等持ち込んでもらい、その人らしい空間作りになっている。 居室には本人の希望に沿って家具を配置し、装飾も自由に行っている。	居室入り口には入居者の手作りの表札が掛かっている。居室内は本人の好みの筆筒や使い慣れた物品が置かれ家族の写真を飾るなど、その人らしく居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の家具の配置や、ベッド周りの日常生活品の置き方、必要な介護用具等、その人にとって安全で使いやすいように工夫を行っている。		